

全量種子更新100%の実施!



# 令和5年産 みなみ筑後の麦づくりこよみ

作成日：令和4年7月19日  
南筑後農業協同組合  
南筑後普及指導センター

赤かび病防除の実施による高品質麦づくり!

喜ばれる  
みなみ筑後の  
麦作りを行い  
ましょう!

① 全量種子更新の実施  
② 土づくりの実施  
③ 赤かび病防除の実施  
④ タンパク質含有率等の向上

月旬	11			12			1			2			3			4			5			6		
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生育期間	播種適期						栄養生長期間									幼穂伸長期間						登熟期間		
主な作業 【資材名】 【実施日】	土壌改良資材の準備 種子消毒 基肥施用 除草剤散布						麦踏み① 追肥(小麦) 土入れ(排水)① 麦踏み② 土入れ(排水)② 追肥(大麦) 除草剤散布③ 麦踏み④ 土入れ(排水)③									糖揃期追肥 赤かび病防除						収穫		

※○印の数字は、作業回数を表わす。

## 品種特性表

区分	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	耐倒伏性	栽培上の注意点
小麦	シロガネコムギ にしのみやわら	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	穂数の確保を図り、穂発芽に注意する。
	みなみのやわら	4.14	6.3	84	7.7	507	強	パン・中華用小麦。赤かび病・穂発芽に注意する。
大麦	はるしずく	4.8	5.21	87	6.9	583	強	早播きや播種量増は避け、適期播種適正播種量を守る。ヤギシロトビムシの害は小麦より出にくい。

※「みなみのやわら」は、「ミナミノカオリ」の特性を準用。



カラスノエンドウ



カズノコグサ



スズメノテッポウ



赤かび病

## 小麦の収穫期の水分と適切な収穫法

子実水分 %	適切な収穫法
25~30	コンバイン収穫はできるが品質をわずかに損う
20~24	コンバイン収穫に適する
17以下	脱粒などのロスが多く、品質が著しく悪くなる

	仕上水分
小麦	11.5%以下
大麦	12.5%以下

## 1. 播種適期・播種量

小麦	播種適期	播種量
小麦	11月15日~11月30日	6~7kg/10a
大麦	播種適期	播種量
大麦	11月25日~12月10日	5kg/10a

※適期播種に努める。  
※大麦は早播きすると品質が低下します。  
※5cm以上の深播きは行わない。  
※播種が遅れた場合は、3割程度播種量を増やす。  
※土壌が乾燥している場合は播種後鎮圧を行う。

## 2. 種子消毒

種子更新をしましょう!!

対象病害虫	薬剤名	処理方法および処理時期
斑葉病 黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5% 【種子10kgに50g】を種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ (小麦のみ)	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当り原液6ml 【種子10kgに60ml】を塗抹処理する。
大麦 小麦 なまぐさ黒穂病	キヒゲンR-2 フロアブル	乾燥種子1kg当り原液20ml 【種子10kgに200ml】を塗抹処理する。

※クルーザーFS30を使用する場合は、種子10kgに対し水60mlを噴霧させた後、クルーザーFS30を60ml塗抹処理し、殺菌剤(ベンレートTコート)を種子粉衣する。

## 3. 土づくり基準

排水対策	地下排水	有材腐葉・堆肥
地下排水	有材腐葉・堆肥	有材腐葉・堆肥
有機物の施用	幅わら	堆肥
土壌改良資材	資材名	10a当り施用量
	とれ太郎	60kg
	ミネラルG	160kg
酸性矯正資材	炭酸苦土石灰	200kg
	消石灰	160kg

※特に大麦は、酸性土壌に對しては酸性矯正資材を投入する。  
※堆肥散布後は、直ちにすき込みを行う。  
※幅わらは、焼却せず有機物の施用としてすき込む。

## 4. 施肥基準 (適期播)

※タンパク質含有率を上げるため一発追肥又は2回追肥を行いましょう!

区分	品種名	施肥項目・時期及び肥料	基肥		一発追肥(2回)		追肥		穂揃期追肥
			444 (14-14-14)	小麦 1月中旬~ 1月下旬	小麦 1月中旬~ 1月下旬	小麦 2月下旬~ 3月上旬	小麦 2月下旬~ 3月上旬	4月下旬 (穂揃期) 硫安 (21-0-0)	
小麦	シロガネコムギ にしのみやわら	40kg	40kg	麦追肥一発2号 (24-0-5) 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg	—	—	
	みなみのやわら	40kg	40kg	硬質小麦専用追肥 (30-0-4) 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg	10~15kg	—	
大麦	はるしずく	20kg	—	—	NK2号 (16-0-16) 20kg	—	—	—	

※大豆残作は基肥を大麦小麦ともに50%程度減量し、追肥についても生育状況により加減する。  
※幅わらを全量すきこむ場合は基肥を10kg増量する。  
※追肥の後は効果を安定させるため土入れを必ず実施する。  
※みなみのやわらは、タンパク質含有率を上げるために、穂揃期の追肥(実肥)を実施する。

## 5. 病害虫防除

対象病害虫	薬剤名	処理方法	使用回数	使用時期
赤かび病	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	収穫14日前まで
	トップジンM水和剤	1000~1500倍 100g/10a	出穂期以降 2回以内	小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫30日前まで
赤かび病	ミラビスフロアブル	8~16倍 0.8g/10a (無人航空機散布) 1500~2000倍 100g/10a	出穂期以降 2回以内	小麦 収穫7日前まで 大麦 収穫14日前まで
	トップジンMゾル (無人航空機散布)	8倍 0.8g/10a	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫21日前まで

※みなみのやわらは、赤かび病に弱いため2回防除を行う。1回目はミラビスフロアブル、2回目はトップジンM水和剤・ゾルの使用を基本とする。

## 6. 除草基準

土壌処理剤を必ず使用しましょう。

区分	薬剤名	処理時期	10a当り使用量 (散布濃度)	使用上の注意事項
雑草多発田	バスタ液剤	播種前又は 播種後出芽前	300~500ml (100~150g)	農地及び畦畔には必ず農 耕地用除草剤を使用する。 乳剤、粒剤ともに排水不 良田や降雨(特に大雨)の 前後には使用しない。
	ラウンドアップマックスロード	耕起前又は 播種後出芽前	200~500ml (25~100g)	
土壌処理剤	クリアター乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500~700ml (70~100g)	一年生広葉雑草の残存雑草の 多い場所に散布する。 除草剤抵抗性スズメノテッポウ には効果がないので注意する。
	クリアター粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4~5kg	
草害処理剤	リベレーターG(粒剤)	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~ イネ科雑草1葉期まで)	4~5kg	カラスノエンドウ発生田は小 さいうち(7cm程度)にアクチ ノールB乳剤を散布する。 ヤエムグラの多い場合は、エコ パートフロアブルを散布する。
	リベレーターフロアブル	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~ イネ科雑草1葉期まで)	60~80ml (100g)	
	ハーモニー細粒剤F	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~発始期)	4~5kg	
	ハーモニーDF	播種後~節間伸長前	5~10g (100g)	
草害処理剤	アクチノールB乳剤	穂ばらみ期まで (雑草発生前)	100~200ml (70~100g)	カラスノエンドウ発生田は小 さいうち(7cm程度)にアクチ ノールB乳剤を散布する。 ヤエムグラの多い場合は、エコ パートフロアブルを散布する。
	エコパートフロアブル	麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期まで)	50~100ml (100g)	

※①バスタ液剤、ラウンドアップマックスロード、ハーモニーDFの散布については周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)に十分注意する。  
②ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後、水洗いをする。  
③ハーモニー細粒剤F・ハーモニーDFはどちらか一剤だけ、1回のみ散布。  
④土壌処理剤は土壌が大きいと薬害がやすいので十分砕土を行い、2~3cmの深さに播種する。  
⑤カラスノエンドウは、除草剤散布に加え、花が咲く頃までに必ず抜き取る。

## 7. 適期管理作業

適期管理作業が速やかに行えるように、排水対策を行っておくことが基本。

- 土入れ 雑草や無効分げつの抑制・倒伏防止・表面排水等の効果がある。1月上旬~中旬(本葉3~4枚頃)・2月上旬~中旬・3月上旬の土壌の乾燥した日に行う。第1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育にともなって土の量を増やしていく。
- 麦踏み 分げつ促進と徒長の防止に効果がある。1月上旬~2月中下旬(節間伸長開始まで)に土壌の乾燥した午後3~5時に行う。
- 土入れ・麦踏み作業での注意事項は次のとおりです。
  - 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み直後には行わない。
  - 麦踏みは茎葉に霜・露があるとき行くと損傷が大きい。また、土が湿っている時に行くと土をしめつけることにより、その後の生育を抑制するので注意する。

## 8. 倒伏防止対策

- 《基本対策》
- 適期に適量の播種を行う。
  - 踏圧・土入れ、排水対策などの管理作業を徹底する。

南筑後農業協同組合農畜産課 ☎(63)-8814  
南筑後普及指導センター ☎(62)-4191  
瀬高グリーンセンター ☎(62)-4111  
大牟田グリーンセンター ☎(56)-8915  
山川グリーンセンター ☎(67)-1214  
高田グリーンセンター ☎(22)-3218

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!